

NEWS LETTER



特別支援学校就労応援団とやまニュースレター・vol.14 令和7年3月発行

特別支援学校就労応援団とやま登録企業は、3月20日付で160社となりました。県内の企業の方々に特別支援学校の生徒たちについて理解が少しずつ広まってきていることが感じられます。新年度も新たな取組を始めますので、引き続きご理解ご協力をお願いします。

アフターケアを通して

特別支援学校地域就労支援アドバイザーにアフターケアを通しての気づきをお聞きました。



山田地域就労支援アドバイザーより

アフターケアを通して、関係機関との連携、情報共有が重要だと感じています。

ある企業は、卒業生の入社から6年目となる現在まで、毎月、就業支援ワーカーに訪問、面談を継続して依頼しています。社内でも上司との面談・ヒアリングを行っているとのことですが、第三者に話すことで気持ちが楽になり、安定した状態で働いていると聞きました。また、グループホームで生活する卒業生に対しては、学校、世話人、職場の上司、生活支援ワーカーが連携して支援を行っているそうです。いろいろな機関、支援者となつがり、トラブルや悩みが小さいうちに素早く対応して環境を整えることで、長く働き続けることができるのではないかと思います。



関口地域就労支援アドバイザーより

1 アフターケアを通して気付いたこと

どの企業も本人（卒業生）のことを気に掛けてくださっていて、本人の様子を尋ねると良し悪しを含め詳細にお話していただけるので、本人が企業の中で温かく見守られ支えられていることを実感し、感謝するとともに大変嬉しく思っています。

2 ポイント（大切なこと）

①人間関係が良好かどうか。（一番のポイントにしている。）

→就職すると人間関係の幅が広がる。特に直接関わる現場の従業員との人間関係は重要である。仕事ができても人間関係が悪いと仕事は長続きしない。多少仕事ができなかったり遅かったりしても、好かれる卒業生は仕事が長続きする。

②キーパーソンがいるかどうか。

→卒業生は夢と希望をもって就職するが、不安もある。慣れるまで、自分の気持ちをなかなか言えず、そこから不具合が生じる場合もある。「身近で気軽に何でも話せる人」、「何かあったときに頼れる人」といったキーパーソンになる方がおられると安心して仕事を続けることができる。

③仕事を頑張っているかどうか。

→就業体験を経て就職しているので、与えられた仕事はできていると思っているが、慣れからくる「さぼり」や「手抜き」をする卒業生もいる。そういう場合は、企業側には遠慮なく注意してほしいことを伝え、卒業生には話を聞きながら諭すようにしている。

3 企業の方に知っていただけるとよいこと

①一人一人の能力・実態・特性は異なっているので、できると思っているてもできないことがある。

→就業体験で行った仕事はできるが、新規の仕事をする人もいればできない人もいる。誰でもできると思われることでも本人（卒業生）の能力・実態・特性からできないこともある。本人の仕事のスキルアップを考え、新規の仕事をさせる時には、本人に確認し、一度やらせてみてから判断してほしい。無理させると、そこから不具合を起こす場合もある。

②何かあれば、遠慮なく学校（関係機関）に連絡してほしい。

→就職したら企業の一員なので、何かあれば基本的には企業対応でよいが、時には、思いどおりにいかない場合もある。適応・定着するまでは、何か気になることがあれば、些細なことでも学校（関係機関）に連絡してほしい。お互いに情報を共有し、一緒に対応することで、問題を早期に解決できることもある。

NEWS 特別支援学校高等部生徒の就職率アップに向けた新たな取組

新年度より、特別支援学校の富山県版技能検定「とやま特別支援教育ジョブスキルアップチャレンジ」の実施に向けて準備を進めます。まず始めに、【清掃】分野から実施の準備を進める予定にしており、種目として「窓拭き」を行います。そのため、検定用の窓枠が必要となります。

企業の方で何か「協力できることがある！」ということがあれば、学校もしくは地域就労支援アドバイザー等にぜひご連絡ください。

